「追想紀言」　学習の記録

令和２年９月

③

追想、兒七八歳時、常侍二先妣一、毎夜就レ寝、必與二先妣一俱而後睡、先妣晨夕不レ怠、黽勉紡績、夜則姑與レ兒同寝、待二兒睡一而又起、兒或覺レ之、啼而不レ止、先妣乃謂レ兒曰、汝不レ能二須臾離一レ我、我而死、則藉令金二其履一、而一二逐乎千萬里之外一、不レ可二復見一也、汝將奈二之何一、

読み

追想、兒七八歳時、常に先妣に侍る。毎夜寝に就くとき、必ず先妣と俱にして、後睡る。先妣晨夕怠らずに黽勉紡績す。夜は則ち姑く兒と同寝し、兒睡るを待ちて、又起きる、兒或ひは之を覚り、啼きて止まず。先妣乃ち兒に謂ひて曰く、汝須臾も我と離れ能はざる、我死なば、則ち藉令其の履を金にして、而して千萬里の外を尋逐しても、復見ゆるべからざるなり。汝將にこれを如何とす。

訳

想い出。私が七、八歳の時、いつでも母にくっついていた。毎晩、寝るときには必ず母とともにして、それから眠った。母は、朝夕懸命に働き、機織りに努めていた。夜になれば、しばらく私と一緒に寝て、私の寝るのを待って、それからまた起きた。私が、時にはこれに気づき、泣きやまなかつた。母は、私に向かって言った。あなたは少しも私から離れようとしないが、私が死んだら、かりにも例えその履き物を金にして、そして千万里の外に出て尋ね追ってきても、また私に会うことはできないのですよ。お前は、まさにこれをどうするのですか。

言葉

俱＝トモニスル
晨夕＝シンユウ　朝と夕
黽勉＝ビンベン　つとめ励む
姑＝ク　しばらく
或＝アル　あるいは
須臾＝シュユ　ほんのしばらく
藉＝シャク　シク　しく　かりに　もし
令＝たとい…とも　…をして…せしむ
履＝リ　はきもの
逐＝チク　オウ　追う
乎＝コ　カ　「～ニ」「～ヲ」「～ヨリ」
奈＝奈何　イカンセン

絵・宮崎和夫